

消費動向に関するアンケート調査 (2020年8月期)

調査結果の概要

- 生活満足度の平均は、10点満点中岐阜県 5.2 点、愛知県 5.4 点。
- 生活満足度および暮らし向きは、岐阜県、愛知県、全国ともに悪化。特に暮らし向きはコロナ禍により大幅に悪化した。
- コロナ禍が家計を直撃し、収入は大幅に悪化、外出型の消費は大きく減少した。

調査要領

1. 調査方法 インターネットによるアンケート調査
2. 調査内容 生活満足度、暮らし向き、収入、消費支出
3. 調査期間 2020年8月5日～7日
4. 回答状況 有効回答 1,260 名 回答者の内訳は以下のとおり

回答者の内訳

地域別	(人, %)			
	男性	女性	計	構成比
岐阜県	210	210	420	33.3
愛知県	210	210	420	33.3
全国	210	210	420	33.3
合計	630	630	1,260	100.0

年齢別	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
30歳未満	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
30歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
40歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
50歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
60歳以上	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

未婚・既婚の別	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
未婚	82	60	142	33.8	83	64	147	35.0	83	75	158	37.6
既婚	128	150	278	66.2	127	146	273	65.0	127	135	262	62.4
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

職業別	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
公務員	9	5	14	3.3	12	3	15	3.6	8	4	12	2.9
経営者・役員	4	1	5	1.2	8	0	8	1.9	1	1	2	0.5
会社員	122	58	180	42.9	123	48	171	40.7	127	55	182	43.3
自営業・自由業	24	9	33	7.9	15	5	20	4.8	22	7	29	6.9
専業主婦(主夫)	0	73	73	17.4	2	86	88	21.0	0	78	78	18.6
パート・アルバイト	10	45	55	13.1	8	49	57	13.6	13	45	58	13.8
学生	10	2	12	2.9	5	5	10	2.4	14	11	25	6.0
その他	8	6	14	3.3	9	6	15	3.6	7	3	10	2.4
無職	23	11	34	8.1	28	8	36	8.6	18	6	24	5.7
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

(注) 端数を四捨五入しているため、内訳の合計等が合致しない場合がある。

1. 生活満足度

現在の生活にどの程度満足しているかについて、「とても満足」を10点、「どちらでもない」を5点、「とても不満」を0点とすると、何点くらいになると思うか、と質問した。

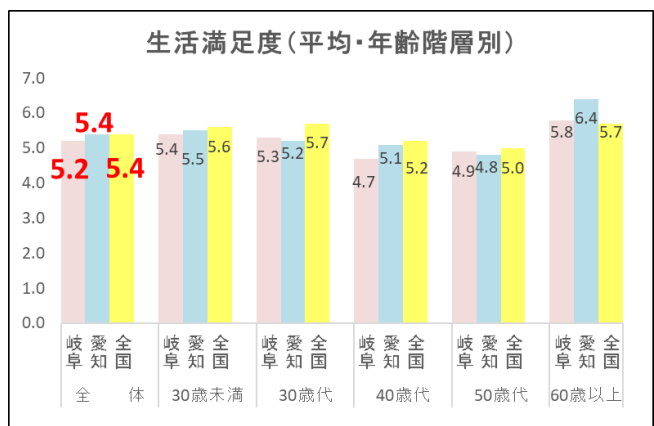
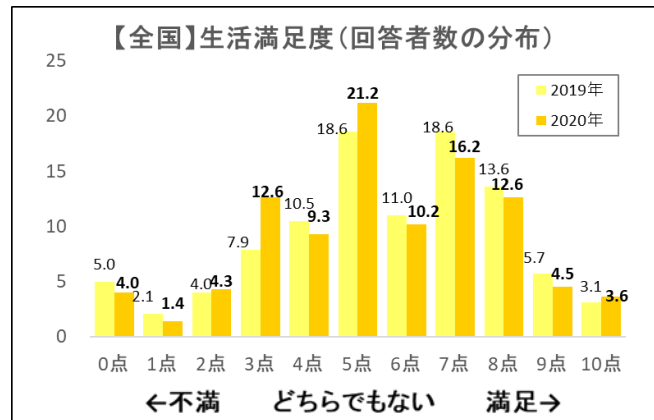
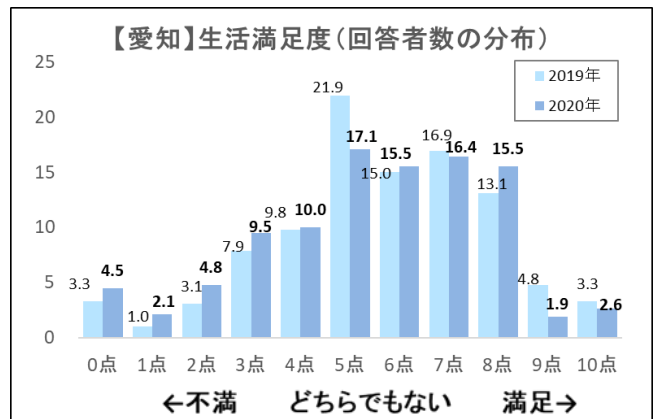
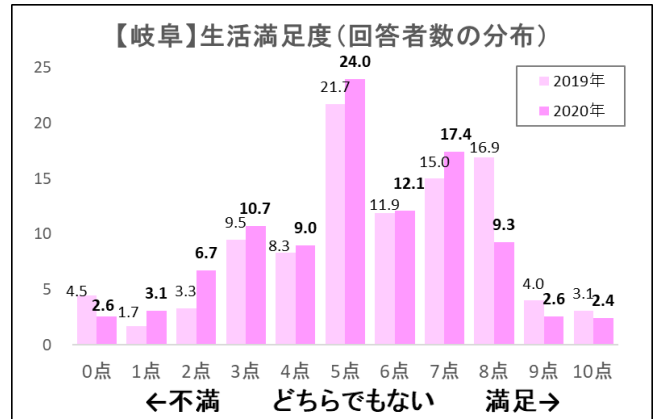
回答の分布では、すべての地域(※1)において「5点」および「7点」と回答した割合が高かった。「5点」と回答した割合は、岐阜県と全国では前年よりも増加したが、愛知県では減少した。

生活満足度の平均点は、岐阜県で5.2点(前年調査比0.4点減)、愛知県で5.4点(同0.3点減)、全国で5.4点(同0.2点減)となり、前年と比較していずれも低下した。

「0点～4点(不満)」と回答した割合は、岐阜県で32.1%(前年調査比4.7%増)、愛知県で31.0%(同6.0%増)、全国で31.7%(同2.2%増)、「6点～10点(満足)」と回答した割合はそれぞれ43.8%(同7.2%減)、51.9%(同1.2%減)、47.1%(同4.8%減)と、いずれの地域でも「満足」が「不満」を上回る結果となった。

「満足」と回答した割合について、愛知県は全国を上回ったが、岐阜県は全国を下回った。

地域別・年齢階層別の生活満足度の平均をみると、岐阜県、愛知県、全国すべてにおいて、40歳代および50歳代では満足度が比較的低く、60歳以上になると上昇する傾向にあった。生活満足度が最も高いのは、岐阜・愛知両県では60歳以上、全国では同点で30歳代と60歳以上であった。



2. 暮らし向き

1年前と比較した現在の暮らし向きについて、「良くなった」を1点、「やや良くなった」を0.5点、「やや悪くなった」を▲0.5点、「悪くなった」を▲1点とウェイト付けし、各項目の回答者数割合を乗じてDIを算出した。

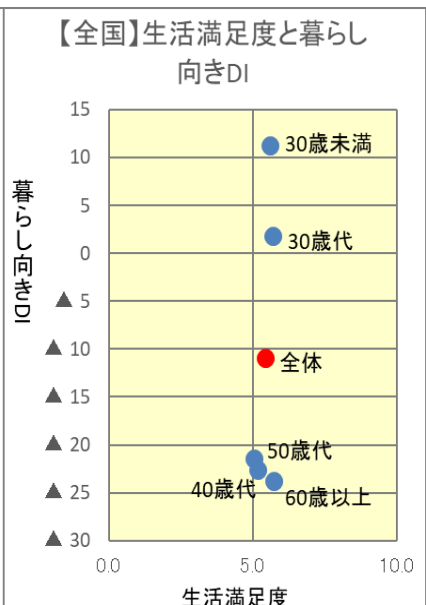
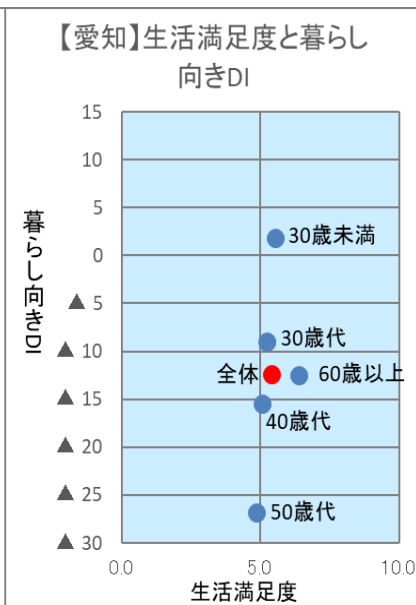
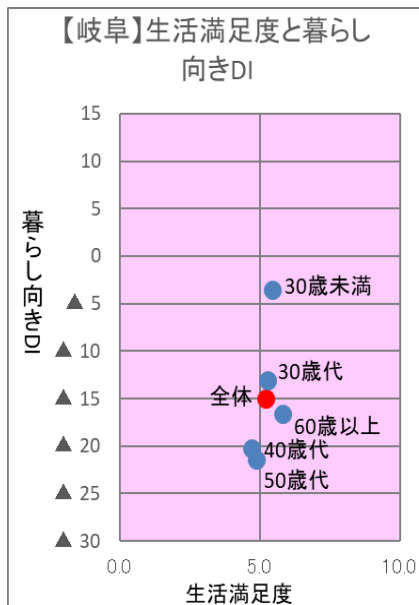
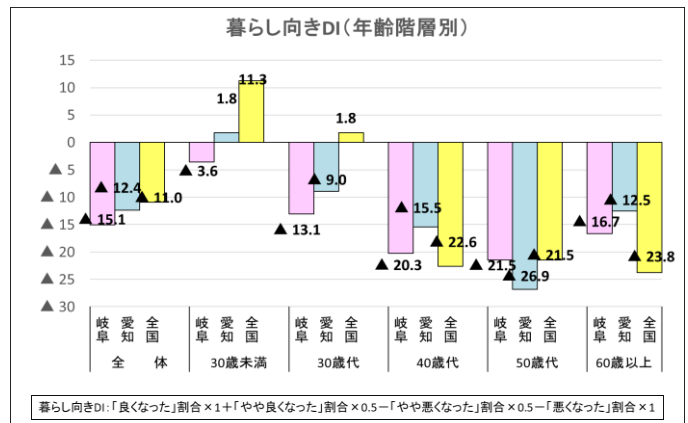
全体では、岐阜県は▲15.1（前年調査比 5.2 割減）、愛知県は▲12.4（同 10.5 割減）、全国は▲11.0（同 7.9 割減）となり、いずれの地域でも2桁のマイナスとなった。また、前年調査比でも、いずれの地域でも大幅に悪化しており、昨年10月の消費増税や新型コロナウイルス感染症拡大による雇用・所得環境の悪化を反映したものとみられる。

年齢階層・地域別にみると、プラスとなったのは愛知県の30歳未満と全国の30歳未満および全国の30歳代のみで、それ以外ではすべての年齢・地域においてマイナスであった。

いずれの地域においても、30歳未満のDIが最も高く、年齢を重ねるにしたがって低下していく傾向にある。特に40歳代、50歳代で低い結果で

あり、岐阜県と愛知県については60歳以上になると改善している。

暮らし向きと生活満足度の関係を見ると、各地域とも暮らし向きDIは年齢によってばらつきが見られるが、生活満足度は全体的に中位付近に集中している。30歳未満は、いずれの地域でも暮らし向きDI・生活満足度ともに比較的高く、40歳代と50歳代では、暮らし向きDI・生活満足度とも他の年代に比べて低くなる。岐阜県と愛知県では、60歳以上になると暮らし向きDIが好転し、生活満足度も向上している。



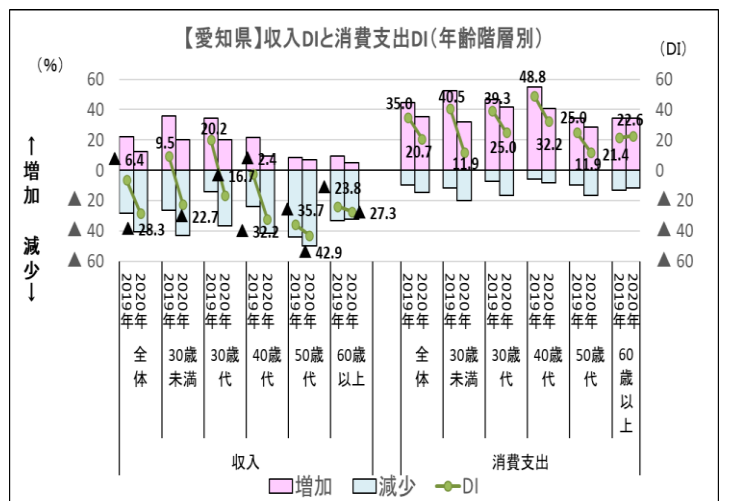
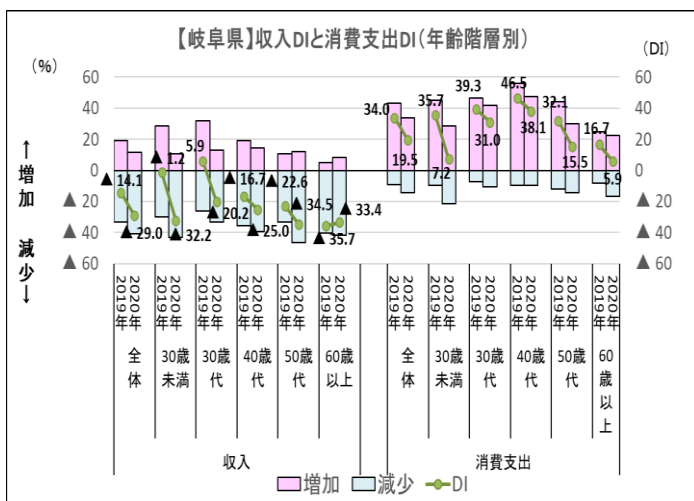
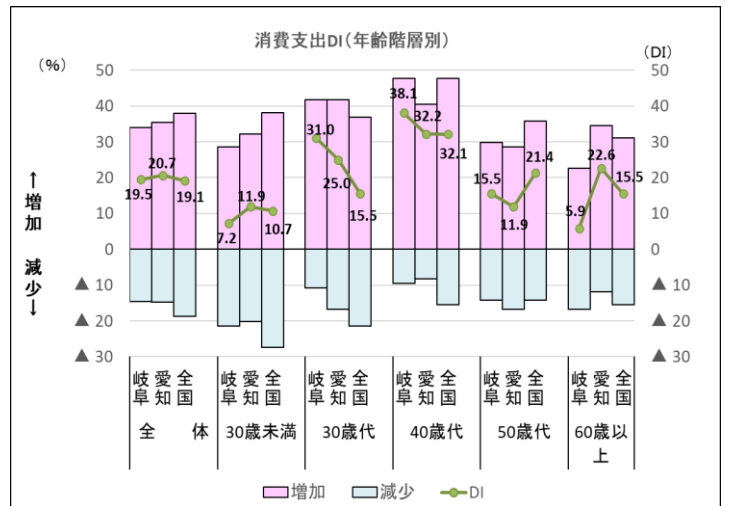
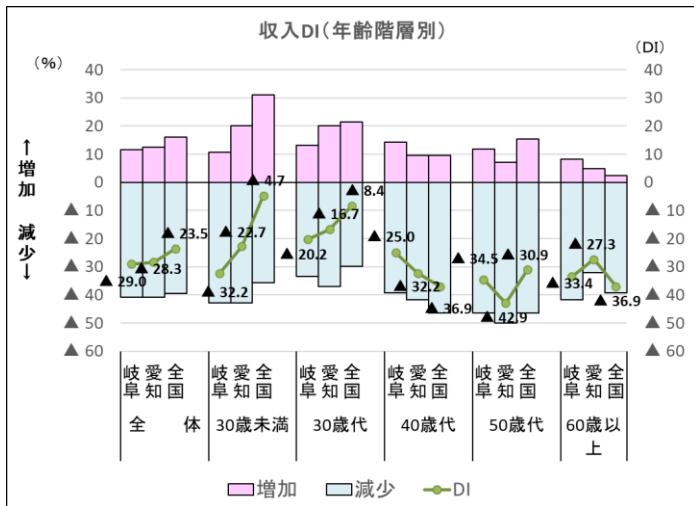
3. 収入と消費支出

収入DIは、全体では岐阜県が▲29.0（前年調査比14.9 増減）、愛知県が▲28.3（同21.9 増減）、全国が▲23.5（同19.4 増減）といずれの地域でも大幅に悪化した。前年調査比では、岐阜県の60歳以上で改善した以外は、すべての地域・年齢階層において悪化しており、コロナ禍における雇用・所得環境の悪化が家計を直撃したものとみられる。

「収入DI（年齢階層別）」をみると、最も大きかったのは、岐阜県と愛知県では30歳代、全国では30歳未満であった。また、最も小さかったのは、岐阜県と愛知県では50歳代、全国では40歳代と60歳以上であった。

消費支出DIは、岐阜県が19.5（前年調査比14.5 増減）、愛知県が20.7（同14.3 増減）、全国が19.1（同16.2 増減）となった。前年調査比では、愛知県の60歳以上で改善（支出が増加）した以外は、すべての地域・年齢階層において悪化した。

「消費支出DI（年齢階層別）」をみると、最も大きかったのは、いずれの地域でも子育て世帯が多い40歳代であった。最も小さかったのは、岐阜県では60歳以上、愛知県では30歳未満と50歳代、全国では30歳未満であった。



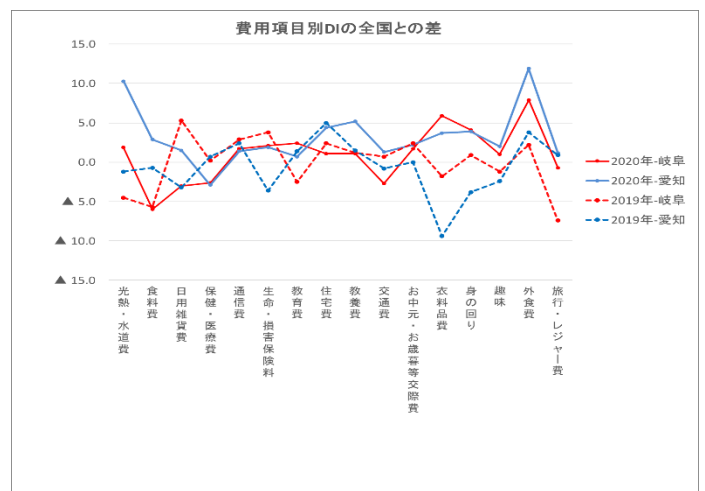
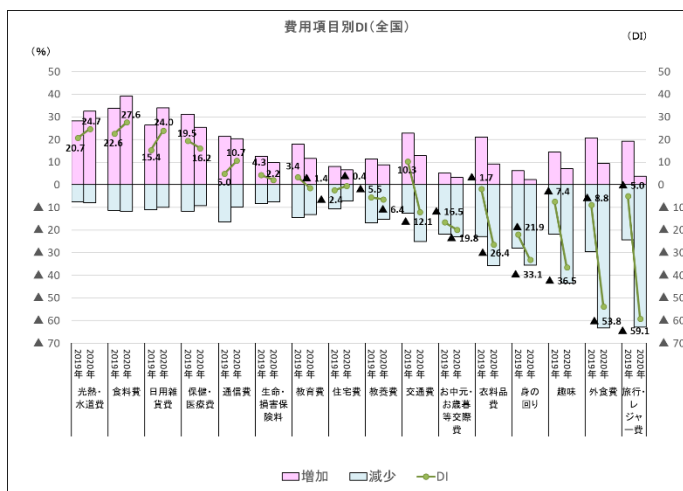
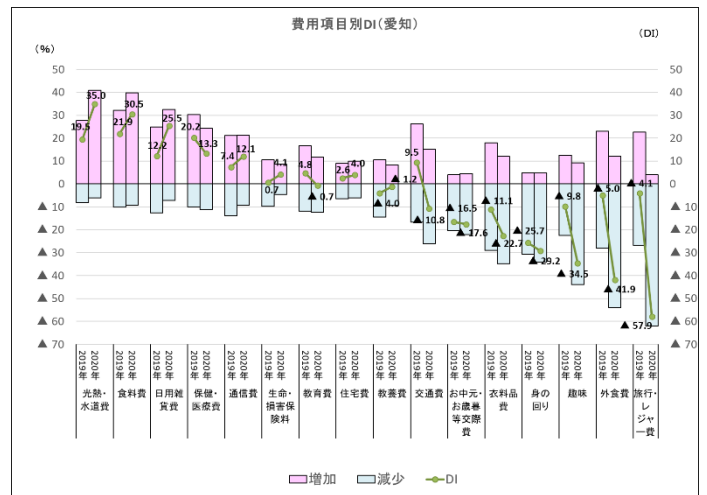
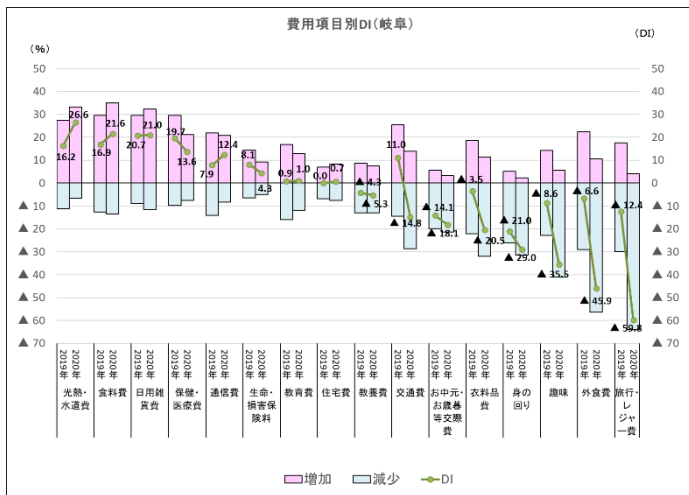
4. 費用項目別 DI

費用項目別の支出について1年前と比べてどのように変化したか質問し、DIを算出した。

いずれの地域でも「光熱・水道費」、「食料費」、「日用雑貨費」、「通信費」、「住宅費」が上昇した。コロナ禍により外出自粛の傾向が続いており、「巣ごもり」のための費用が増加したほか、衛生用品を含む日用雑貨への支出が増えたとみられる。

一方で、いずれの地域でも「交通費」、「衣料品費」、「趣味」、「外食費」、「旅行・レジャー費」の低下が非常に大きかった。こちらもコロナ禍による外出自粛の影響が色濃く表れたとみられる。

全国の費用項目別 DI と岐阜県および愛知県との差、およびその変化をみる。岐阜県、愛知県ともに「外食費」において差が大きかった。前年の調査においても、両県の外食への出費は全国水準よりも高かったが、今年は全国で外食費がより抑えられたため、その差が拡大した。「光熱・水道費」と「衣料品費」および「趣味」への出費は、前年の調査においては全国水準よりも低かったが、今回調査でその差はプラスに転じ、全国を上回る水準となった。



5. 終わりに

2017年以降、継続して行っている本調査であるが、今回は新型コロナウイルス感染症が拡大して以降初の調査であった。

生活満足度はいずれの地域でも前年と比較して低下した。前年に引き続いて、現在の生活を満足と感じている割合は不満と感じている割合よりも多かったが、その差は縮小した。最も満足度が高いのはすべての地域において60歳以上であった。

暮らし向きDIは、いずれの地域においても前年と比較して大幅に悪化しており、昨年10月の消費増税や新型コロナウイルス感染症拡大による雇用・所得環境の悪化を反映したものとみられる。年齢階層別にみると、30歳未満が最も高く、年齢を重ねるにしたがって低下していく傾向がみられた。特に40歳代、50歳代で低い結果であった。

収入および消費支出をみると、全体的に収入は減少傾向、消費支出は抑制される傾向にあった。

収入DIは、いずれの地域においても前年と比較して大幅に悪化した。当地域(※2)でみると、男性(▲26.0)よりも女性(▲31.4)の方が小さく、女性の方が収入の減少傾向が強いことがわかる。コロナ禍における休業や営業時間の短縮など、企業活動の停滞およびその対策として行われる雇用調整は、特に非正規雇用労働者を対象に今なお続いている。本調査のみを用いて正確な原因を探ることはできないが、非正規雇用労働者の多数を占め

る女性労働者への影響は大きかったと言えるのではないだろうか。

消費支出DIを年齢階層別にみると、全体として40歳代が大きく30歳未満が小さい傾向にあった。コロナ禍により先行きが見通せない中で支出を抑制したいという考えが多いと思われるが、40歳代は子育て世帯が多いことなどにより支出を抑制しにくいのに対して、30歳未満は単身世帯も多く他の世代と比較して支出を調整しやすいことが反映された結果ではないだろうか。

費用項目別DIでは、外出自粛や休校、在宅勤務の広がりなどに伴い、いわゆる“巣ごもり”のための費用が増加した一方、外食費や旅行・レジャー費などの外出型の消費は大きく減少しており、コロナ禍の影響が色濃く表れた結果となった。

緊急事態宣言解除後、経済活動は徐々に再開されたものの、厳しい経済情勢や雇用・所得環境は当面続くものとみられ、急激な回復は見込めないだろう。今後は「Go To キャンペーン」の延長検討や旅行・観光業や飲食業などの支援を想定した追加の経済対策など、コロナ禍で落ち込んだ消費を喚起するための対策が続くようだ。新型コロナウイルス感染症の収束とともに一刻も早い経済の回復が望まれる。

(研究員 萩原 綾子)